

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100220		
法人名	株式会社ワタナベ		
事業所名	グループホームゆふの郷		
所在地	福岡県福岡市南区長丘1-4-37		
自己評価作成日	令和2年7月3日	評価結果確定日	令和3年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキ+enterで改行出来ます)

「高齢者が主体的に選択できる生活の場を創る。」を実現するために母体である調剤薬局との協働を行い、自宅内、施設内においてお一人おひとりのイメージに合った介護を目指しています。併設の小規模多機能ホームと共に「長丘住んでよか隊」へと加入しており、地域の一事業所としてどのようなことが出来るかを考え、貢献できる事業所となるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1関ビル1F	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和2年7月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆふの郷」は平成26年12月に開設され、小規模多機能と併設型の2ユニットからなるグループホームである。母体法人は福神調剤薬局グループで、福祉事業部は地域に根ざした総合福祉サービスを展開している。近隣の「竹公園」で、「あおぞらカフェ」が開催され、各事業所が集まり、交流会、健康体操などが行われた。地区の福祉事業所が集まり結成された「長丘住んでよか隊」で自治会、社協などの協力により「夏祭り」「もちつき」などが行われるなど、地域との交流も盛んである。敬老会には小学生の訪問があり「よさこい踊り」を踊ったり、お祝いのメッセージのプレゼントをもらうなど、楽しい時間をすごした。昨年5月には家族、職員との懇親会を催し、より深いつながりが持てた。事業所の今年の目標として「みどり」について、より深く職員全員で取り組み準備をしている。おひとり、おひとりが自分らしい生活を営み、住み慣れた地域で今まで培ってきた生活ができるように今後も力を尽くし、今後も発展が期待される事業所である。

ohitori

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々々の状況や要望に応じて	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が			

64	利用者は、ていつ々の状況や要請に順じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢者が主体的に選択できる生活の場をつくる」という、弊社福祉事業部における理念で、共有はできているが、実践できているかは疑問。	法人の企業理念、福祉事業部の理念、行動方針、接遇五原則「あいさつ、表情、みだしなみ、態度、言葉遣い」などは入社時に説明を行い、朝礼時などに職員全員で共有している。理念は2階、3階の事務所内、休憩室にも掲げており、職員全員で共有している。福祉事業部の理念に基づき、職員一同で「みんな家族だ」という事業所の理念を考え、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの招聘や地域行事への参加は行っているが、日常的ではない。	地区の福祉事業所が集まり結成された「長丘住んでよか隊」が中心となり、事業所見学などに取り組んだ。地域社協が主体となる「街角かかりつけ隊」に参加しており、案内は事業所入口に掲げてあり、入所先の相談、介護相談、車いすの貸し出しなどを受け付けている。敬老会には小学生の訪問があり、踊りを楽しんだり、お祝いのメッセージのプレゼントを頂いた。長丘小学校で行なわれる夏まつり「こうのす祭り」には職員が参加する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の小規模多機能と共に、長丘地域の福祉事業所による「長丘住んでよか隊」に参加し、地域向けのカフェや介護相談などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットや事故報告、家族からの意見を運営推進会議で報告し、意見など頂戴している。	運営推進会議は二か月に1回行い、家族、自治会長、社協、地域包括などの参加がある。年2回は他のグループホームと合同で行ない、相互訪問する事で、お互いに運営に活かしている。会議ではヒヤリハットや事故報告を行ったり、家族、参加者から意見を頂き、サービス向上に活かしている。毎月のお便りで利用者、サービスの実際、取り組み状況などについてお知らせをしている。昨年5月には家族、職員との懇親会を行い、家族からより多くの意見を頂くことができた。	毎月お便りを出されているとの事、運営推進介護のポイント、次回の会議の議題などを書き添えるなど、家族の参加がより多くなるように工夫をされてみたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員との連携は制度についてを質問する程度。	制度に関して質問などがある時は市役所に電話にて相談をしている。介護申請は郵送している。市町村担当者とは相談しやすい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回は身体拘束についての社内研修を行っている。2ユニットのうち、1ユニットには入り口付近に階段室があり、度々、入居者が階段を降りることがあったため、危険防止のため簡易施錠している。	年2回、身体拘束についての社内研修を行う。ユマニチュードケア技法の話なども取り入れている。三か月に1回は会議のなかで身体拘束の啓発をおこなう。ユニット入口近くに階段に通じる扉があり、度々、入居者が階段を下りることがあったため、危険防止のため簡易施錠をしている。夜間センサーは3名利用しており、家族の承諾は受けている。昨年は離設があり、近くの喫茶店で見つかった。言葉遣いなどに関しては、管理者がその都度指導を行っている。	

R2.7自己・外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について社内研修は行っており、身体的な虐待はないが、心理的虐待ともとれるような言動がある。その職員には都度指導を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで成年後見制度の活用事例はないが、地域包括の資料は準備している。	権利擁護に関する制度について年1回は研修を行っている。現在まで制度の活用事例はないが、定例会議などにおいて心身の状態把握を共有している。地域包括の資料は準備している。必要な時には法人内に弁護士がおり、取り継ぐこともできる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、料金の改定時には文書にて説明を行い、不明点を尋ねられた場合は十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回程度だが、家族と職員とで食事会をし、交流を図っている。その際、協力的な意見も生まれ入居者支援を行っている。	週1回は、家族の訪問があり、その際に、利用者、家族の意見を伺う。昨年5月には家族、職員と懇親会を催し、幅広く多くの意見を頂くことができ、それらを運営に反映させている。毎月個別で写真付きの便りを発行し、日頃の様子をお知らせし、希望、意見なども頂いている。本人、家族の要望に応じ訪問マッサージ、訪問歯科などの導入は進めている	事業所独自で、アンケート実施ができるならば、利用者、家族の意見、要望などのアンケートを取ってみたいだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の効率化についてはフローを見直すなど定期的に行っている。	月1回のミーティングは全員出席できる日を選び行っており、職員の意見、提案も活発に出されている。シフトの相談にも、いつも対応してくれる。又職員間でも協力してもらい、とても働きやすく、仕事にやりがいがある。個人面談もあり、次に向けての励みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を設けており、各人の自己目標や適正な評価を行っている。現場からの意見を取り入れ、物品購入など環境改善に取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集採用については制限はせず少しでも長く勤めて頂くよう努めている。	職員の年齢は28歳から72歳と幅が広い。一階の小規模多機能とグループホームに看護師がいる。休憩時間も一時間あり、職員同士で情報交換を行っている。制服も2枚あり重宝している。職員はお互いにコミュニケーションを取り、作品作り、ハーモニカに合わせ歌を唄うなど得意な事に取り組んでいる。研修の案内もあり自己実現に向け、研鑽の機会が持てる。介護福祉士の資格を取り、今年1月には正社員になった社員もおり、今後も研修を受け自己研鑽に励もうと意欲的である。	

R2.7自己・外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「ユマニチュード」を全社で推進しており、全体研修などで講習会を行っている。	「見る」「話す」「触れる」「立つ」という人間の持つ特性に働きかけ、寄り添い「人間らしさ」を尊重する認知症ケア方法のひとつである「ユマニチュード」を全社で推進しており、全体研修などで講習会を行い、日常のケアのプロセスのなかで実践できるようにしている。事業所の管理者が「看取り」「高齢者虐待防止」「身体拘束」「口腔ケア」などの研修を受け内部研修に落としている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所に届く外部研修の推進を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との運営推進会議、地域事業所との取り組み、地域会議への参加など行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にカンファレンスを行い、本人のご性格や行動把握、環境づくりを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安などの聞き取りを行い、ご本人にとって最善な支援を行うよう説明する。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に緊急時への対応のため、訪問診療をお願いしており、その他訪問歯科などにおいては必要時に検討し導入している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には自立支援できるようなケアが望ましいが、「お世話」となっていることが多い。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を経て、ご家族同士が話し合わせ、「プランタを持って来て、水やりを入居者さんにしてもらおう」などあり、協働できていることもある。		

R2.7自己・外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の来訪は歓迎しており、実際よく来られる。ご家族対応になるが、こちらの訪問理美容は使用せず、地域の理美容室に行っている方もいる。	以前勤務していた職場の同僚、近隣の方、教会の方などの訪問がある。家族の支援でなじみの美容院に行かれている方もいる。家族同士が話し合わせ、2階のサニールームにプランタを持ってきて、水やりを利用者に行ってもらうなどと、協働できていることもある。本人と家族の絆を大切にしながら、ともに本人を支えている関係を築いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、レクを通じて関わり合いを持っていただき、関係が悪化するなどあればしっかり介入し適度な距離を保つよう行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去におけるサービス終了が主だが、お電話いただき、「手伝うことがあれば配膳でもしにい。」などお言葉をいただくこともある。また、利用者の配偶者についての相談もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録に計画を記載しており、毎日評価をしている。普段の会話の中にある希望などは汲み取っているが実現は少ない。	インテーク時は管理者が行い、事業所に来てもらったり、病院にて行くこともある。利用者及び家族からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、不安な事、要望などをしっかりと聞き取る。意思を伝える事が難しい利用者にはその時の表情、仕草などで思いをくみ取るようにしている。把握した内容、情報などはケアマネジャーはじめ、職員全員で共有する。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時などご家族と本人の生活歴をしっかりと聞き取りを行い、導入する直前までの介護サービスなどの歴を把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定例会議などにおいて心身の状態把握を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画期間近くにカンファレンスを開き、直近の本人の状況を踏まえケア方針を考え計画へと生かしている。	ケアマネジャーが短期計画を立てる。担当者は1~2名を受け持ち、介護記録に計画を記載し、プランに紐づけ、毎日評価をしている。気が付いた事は申し送りを行う。月1回のミーティングは全員出席できる日を選び、職員全員で情報を共有し話し合い、変化を見逃さないようにモニタリングを行う。担当者会議で利用者、家族の意向、目標の達成状況、医師、看護師などの意見を取り入れ、管理者、ケアマネジャーを中心に見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成する。	介護記録に計画が記載され、プランに紐づき毎日のケアが実施され、気づきもよくできている。プラン見直し時に家族、医師、看護師などからもらった意見を、担当者会議記録に日付と内容を記載することにより、よりチームケアにつながる取り組みになる事に期待したい。

R2.7自己・外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは申し送りノート、看護ノート、モニタリングを通し、計画作成担当者が計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ、訪問マッサージや訪問歯科などの導入を進めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の要望があれば将棋ボランティアなど導入できるようボランティアの把握には努めているが現段階では導入はない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の助言あればご家族に報告し、病院受診の必要性があればご家族に協力を求め介護タクシーの手配など行い、難しければこちらで対応している。	もともとのかかりつけ医を利用され、往診をしてもらい、急な時は電話にて医師に指示を仰ぐことができる。提携医は24時間対応をしてもらえる。他科受診は家族に対応してもらい、家族が困難な時は事業者で対応している。医療情報は医師間でやり取りを行っている。受診時の様子、薬の変更などを看護ノートで全員が確認をしている。医療情報も随時家族とのやり取りで共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノート、職員間ラインなどでプライバシーには十分注意しながら情報の共有は行っており、適切な看護を受けれるよう準備は行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入院時には直近状況やADLなどの報告を医療機関に報告し、円滑に治療を行って頂けるよう心掛けている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平素の状況を踏まえ、終末期が近づいているとあれば主治医に報告し家族との話し合いの場を設けている。現在事業所がもっている介護力、看護力を説明しなるべく看取りに向けている。	看取りの指針はあり、契約時に本人、家族に説明をしている。ターミナルケアの研修は職員も受けている。緊急時の連絡網もある。重度化の際には改めて家族、医師、職員と話し合いの時間をもち、同意を得て、看取りのプランを立てる。常勤の看護師もおり、医師は、24時間対応可能である。事業者がもっている介護力、看護力を十分に説明しながら方針を共有し、看取りに向け管理者を中心にチームで支援に取り組んでいる。	

R2.7自己・外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会議などで定期的に事故発生時などの流れを確認している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練はなるべく参加の初めての職員に受けてもらっている。地域の防災訓練などにも参加していきたい。	防災訓練は年2回行っており、1回は夜間想定で行っている。管理者、職員、建物管理会社の職員の出席もある。管理者が地域の防災訓練に参加し、内部研修で伝達を行っている。事業所を避難場所に提供できることを自治会長に話している。	地域との協力体制を作っていくため、公民館などで情報を収集し、事業所での防災訓練への参加呼びかけなどをして見たらどうだろうか。消防署に声かけ、防災訓練などへの参加のお願いをするのも良いのではないか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の対応に管理者が随時注意しているが、介護についての話を本人近くで行ったりする。	接遇マナーの内部研修を行っている。職員の対応については接遇五原則「あいさつ」「表情」「みだしなみ」「態度」「言葉遣い」などについて管理者が随時注意をしている。写真掲示に関しては利用者、家族に承諾、同意書ももらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話の中で思いなどは聞くことがあるが、実現に向けては進まない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の動きに合わせてもらっていることが多い。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身でされる方以外の方へのいわゆるおしゃれの支援はイベント時以外は行っていない。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の後片付けなど衛生面に注意し一緒にやっている。	食事は業者から調理済みの食材を配達してもらい、温め、刻みなどを行い、ご飯は事業所で炊いている。行事のある時は、行事に見合ったピザ、ケーキ、敬老会の時は、すしなどを配達してもらう。食事後のテーブル拭きなど後片付けは、利用者のできることを一緒に行っている。外出レクは月2～3回計画を立てており、回転ずしなどに行った。秋祭りでは、よさこい隊の訪問があり、歌、踊りとともに、フライドポテトなどを食し、楽しく過ごした。	

R2.7自己・外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量の確認を行い、減少傾向などあれば主治医に相談したり、本人が好むであろう味の栄養補助食を購入するなどしている。			
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、なるべく自身で出来る様に働きかけている。なるべく訪問歯科に入っただき、専門職からの意見を参考にしている。			
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンはチェック表を利用し、尿量、便状態などが通常とは違えば、看護師と連携、場合によれば主治医の指示を仰いでいる。	各ユニットごとに、全員分の状況を、一日の排泄チェック表に記載し、排泄、水分摂取量などを把握している。気付きは、その都度書き込み、職員間で共有し、看護師などと連携している。排泄の声かけを早めにする事で、失禁の回数が減り、パットの使用料が減った。排泄のパターン、習慣の情報を活かし、自立に向けた支援を、職員全体で行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認は毎日行い、チェック表を用い、何日排便がないかなどの確認は行っている。排便なしが続けば、水分量の確認、緩下剤の調節を行っている。			
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前中での入浴施行だが気分が乗らないなどあれば午後に行っている。	週2回の入浴で、午前中に入浴を行う。希望、タイミングなどで午後に入る事もある。個浴で湯は一回ずつかえる。季節の湯を体験したり、シャンプー、リンス、石鹸など自分の好きな品物を使用している。入浴時には皮膚観察を行っている。入浴の場所を、ゆっくりとしたコミュニケーションの場所としている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ずっとリビングにいたり、ずっと居室に居たりなどは無いようにしている。			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方がいつどのくらいの量を飲んでいるかなどは把握できている。			
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お酒を嗜まれる方の夜中の歩行状態悪化があった際に、ご家族と話し合い、ノンアルコールのお酒を準備していただくようになった。			

R2.7自己・外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出は行っているが、家族が難しい場合は外出企画、または個別に外出を行っている。	家族の協力で外出は行っているが、事業所として季節の外出行事計画を立て「初詣」「花見」「紅葉」などに行っている。個別対応としては近隣の公園、コンビニ、ブックオフなどに職員と一緒にいく。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の授受、盗った盗られたなどが起らないよう極力大きなお金は持ってきていただいている。お買い物に行きたいとあれば、ご家族に了承をもらい立替にて行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は本人につなぎ、会話して頂いている。手紙のやり取りも文字が書ける方にはして頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間内に写真掲示や工作などで作ったものを飾り付け行っている。	南向きのあり明るい日差しが差し込むリビングを中心に居室が配置され、入居者も自然と集まりゆっくりとそれぞれ思い思いに過ごしている。壁には外出時の写真、習字の得意な職員が書いた歌詞のイラストが飾られている。浴室は2階に器械浴、3階は一般浴がある。ユニットの入り口に、靴を履くための折りたたみイスが設置されている。2階のテラスには季節のプランターが置かれ利用者が水やりを行っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の配席以外の席はもうけにくい、ソファでは自身の場所として座ってもらっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな花などをご家族に準備してもらうなど行っているが、人によって温度差があり、全員ではない。	居室の表札は花や植物が描かれ、カラフルな色どりで飾られている。カーテン、ベッド、エアコン、照明器具などは備え付けてある。部屋の上部には飾り棚兼収納棚も設置され部屋がすっきりと片付けられている。自分が描いた絵画を部屋に飾ったり、好きなプリザーブドフラワーを飾るなど、それぞれ自分なりに居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯ものたたみ、取り込み、干し、食器洗いなど可能な限り家事をして頂いている。		